

## 消えゆく海岸線

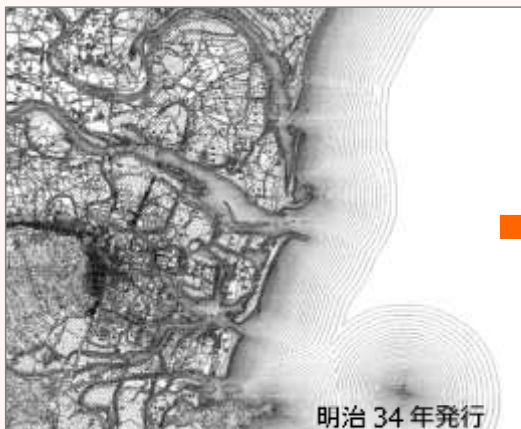
最近、気仙沼市に住む知人のフェイスブックの写真を見て驚いた。何と高さが、11.3メートルもある巨大な防潮堤。海を遮るようにそびえたつ。もう一枚の写真は、堤防の幅が80mもある防潮堤。人々の命と生活を守るためという理由で、地元からの要望により建設されたとのこと。昔あった浜は、消えてしまい、コンクリートの壁のみが、あるという風景。

浜を失うことで、海と陸との連続性が失われ、多様な動植物が生息する場を失い、かつての景色も消滅してしまった。津波を体験した地元の住民だけが知る恐怖から要望したことかもしれない。しかし、この防潮堤を未来に引き継ぐことが、果たして地域のためになるのか、疑問である。海が、遠ざかる。それだけでなく日本の海岸線は、多くがコンクリートに覆われている。自然の力は、時として人間の想定を超えることがある。人命を守りながら、多様な命を育む自然と共生していけるような減災の方法が、あったのではないかと思うのだが・・・

「海岸・沿岸域で難しいのは、わが国にはこれらの生態系を包括的に保全する法律がないという事である。森林には森林法、河川には河川法、海岸と対象とした海岸法、港湾を対象とした港湾法、漁港を対象とした漁港漁場整備法、河口は河川法、など、さまざまな法律が絡み合っている。漁業法や水産資源保護法によって漁業権が設定されあるいは、保護水面とされている海域もあり、・・・」(出典「自然保護 その生態学と社会学」地人書館刊) 一筋縄ではいかないのが、海岸・沿岸域であるようだ。

さてラムサール条約では、湿地を、・海洋域・河口域・湖水域・河川域・沼沢地域の5つの主要なタイプがあるとしている。この海洋域には、沿岸域、潟湖、並びに礁湖、岩礁、サンゴ礁を含む沿岸域湿地が含まれる。ちなみに 吉野川河口域は、汽水域であり、日本最大級の河口干潟がある。湿地は、人が賢明な利用をしながら、努めて残していかななくては、簡単に失われてしまう自然なのである。

藤永知子



## 目指せ！四国で最初の 『吉野川ラムサール条約湿地登録』へ

故郷から離れてみると、当たり前にあった身の周りのものが、かけがえないものだったと気づかせてくれる。「離れてわかる親の有難さ」親と同等に「環境」もある。

吉野川下流近くで生まれ育った私は、春は潮干狩りでシジミ取り、夏は沖洲海水浴場へ、中学生になると早朝吉野川橋往復ランニング、冬はシラス取りの灯りが幻想的な吉野川の光景に見入ってしまう。振り返るとまさに吉野川の懐で育ったことがよくわかる。そんな良き時代がすぐによみがえり、ついこの間のようにも思えるが、ひとたび吉野川河口に立ってみると、様変わりした風景に愕然となり、経済優先一辺倒、人間の近代技術の破壊力を思い知らされる。

変わりゆく環境の中で、昔々大昔からそこを棲み家として脈々と命をつなげてきた住人たちは人間だけではない。住むところを追われ干潟の片隅で、ひっそりと生きている生き物たちに目を向けようと干潟観察会が行われ、親子連れのかわいい長靴姿の子供たちで、干潟は一気に賑やかになる。生き物たちにとっては迷惑なことだけど許してね。ここにいる人たちは君たちの味方、守ってくれる存在になるからね、と願いを込めて心の中でつぶやく。

一方、飛ぶ鳥に目を向けると、吉野川河口干潟は渡り鳥シギチドリの中継地点として、国内でも有名な野鳥観察スポットとして知られている。野鳥の会・観察会も定期的に行われ、会員による長年の調査記録から、世界的にも貴重な干潟であることがよくわかる。1996年、野鳥の会徳島県支部の尽力により、吉野川河口が「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」の登録となった。これは、渡り鳥にとって重要な生息地の保全を国際的に進めていく協力事業で、『ラムサール条約湿地登録』に向けて大きなステップとなる。

そんな中で、環境省レッドデータブックで絶滅危惧種Ⅰ類の希少種ルイ

スハンミョウは、生息地であった沖洲海浜が高速道路建設用地として埋め立てられてしまった。その代償地として、新たに埋め立て造成された沖洲人口海浜へ移入されたが、生息数は減少、悲しい現実を突きつけられている。そして河口から15kmほど遡ると、267年前の江戸時代、先人の知恵と計り知れない大きな労力によって造られた歴史的構造物、世界遺産に値するとの声も聞かれる「第十堰」がある。

ここに可動堰計画が持ち上がり、住民投票でNO!を決めてから20年…開発の波に勝てず河口に新たな橋”しらさぎ大橋”が架かり、またさらに河口に高速道路架橋が建設中の河口地帯。大きく変わりゆく吉野川河口の自然環境を危惧し、『ラムサール条約湿地登録』認定への声が高まっている。

かつて国策の大型公共事業である可動堰を阻止した市民参加型の徳島住民投票運動を、四国初となる『吉野川ラムサール条約湿地登録』へとつなげられないものかー徳島の自然を守るのは、地元徳島の住人だ。

4月、月齢がちょうど満月の干潮時の午後、私はお骨を抱いて船頭さんの船に乗りこんだ。ズグロカモメが見送ってくれる中、幾本もの巨大な未完成の橋脚を横目に、波穏やかな沖へと進んだところで、蒼く深い海へ…沈めた。生命をはぐくみ、生を終えたものを流し、また生命をはぐくむ大なる循環のサイクル。私たちの利便性とひきかえに神聖な自然を切り売りするのは、もう終わりにしたいと強く願う。

生物多様性の源である吉野川、豊かな恵みを広大な流域へと届けてくれる吉野川、数多の支流から大量の雨が一気に本流へと流れ込み四国三郎との異名を持つ吉野川、そして誰のものでもない清き流れの吉野川を後世に残すために、ラムサール条約登録湿地を目指して活動は続きます～周りの皆さまにもお声かけして～どうかご一緒に～

富峯 康

～吉野川礼讃 12～

## 吉野川・きわめつけの藍



2020年 東京オリンピックのロゴは、味噌をつけた末に「ジャパングルー」と、日本古来の市松文様を組み合わせたものに決まった。私は、「ジャパングルー」という、いかにも現代人が好みそうな言い回しは、決して好きではないが…

それは、元禄期(18C)に木綿の生産が拡大し、その染料としての藍生産も増大したことで、江戸時代に大はやりした藍染の色が「日本を代表する青色」となったようだ。

一時期、爪を真っ青に染めて、藍染をしていた経験上、確かに藍は、絹より木綿になじむ。

さて、吉野川流域の藍生産は、正に気候・風土に合ったもの。それは一口で言えば、吉野川の「暴れる」事を遂手に取った洪水容土の賜物であった。

播種<sup>はしゅう</sup>※(2月中旬)から五ヶ月、定植<sup>ていせい</sup>※(4月)からわずか三か月足らず7月末には、もう一番刈りの葉を摘み、二番刈りの8月末で葉の採集は、終わる。このごろから吉野川は、台風による氾濫期となる。次年への豊かな土壌の供給である。

藍作は、そうでなくても、金肥と呼ばれる干鰯<sup>ほしか</sup>・鰯<sup>にしん</sup>かす・油粕を投入しなければ、良質のものは望めないものであり、吉野川の利用は、欠くべからざるものでもあった。それだからこそ、江戸期、吉野川流域には、ほとんど堤がなかったのだ。

葉の採集から「藍切り」「藍粉成し」、藍寝床で「寝せこみ」の過程で、藍の機嫌をとりつつ、ふとん(むしろ)をかけ、幾度もの水をかけ、発酵をすすめ「染<sup>すくも</sup>」にしていく(12月)。藍作は、気を抜くことのできぬ重労働であった。

※播種…たねまき

定植…苗床から畑に移して本式に植えること

河野眞理



## おいしい吉野川

# カマス

スズキ、コチ、ヒラメ等の一部の個体は年中川に定着するが、本体は海からやって来る！

そんな中、小型で有りながら獰猛そうな口を持つカマスも小さな群れでは有るがイワシに付いてくる。

性質は外見通り狂暴。

動くものを見れば迷わず襲いかかる。自分の体長ほどの金属のルアーにも果敢に食いついてくる。

しかし、その性質とは裏腹に、柔らかな骨、干物を焼けば骨まで食べられ、味も風味豊かで、酒のお供に最高〜ッ。焼いても煮付けてもとても美味。あまりに美味しいので刺身で食べたことがない。

天候が良ければ、カマス→干物との考えに囚われてしまうのである！

次回釣ったらまた干物！

楽しみです。

スーパーで干物を見つけたら一度お試しあれ。

美味しい吉野川  
ごちそうさまでした。

さちのちち



## イベントお知らせ

### 報告

3/29~4/4	吉野川を感じよう！作品展	皆様ありがとうございました。
5/13	初夏の住吉干潟を楽しもう 助任やさき干潟で遊ぼう	雨天のため中止 50名の参加者で楽しみました。
6/16		
7/1	吉野川一斉清掃	吉野川北岸吉野川橋下

### 今後の予定

9/8	住吉干潟シオマネキ調査 10:00~	生息数と稚ガニ調査両方
9/29	総会 10:00~11:00	場所県民プラザ2階マリンホール
10/25	満月の月見会 6:00~	吉野川最河口パーキングエリア
11月	ウラギク鑑賞会	時期は随時

会員募集中 会費：1口1,000円

- お問い合わせ&お申し込みは事務局まで
- 振込先：ゆうちょ銀行  
吉野川ラムサールネットワーク  
口座番号 01640-6-52973

吉野川ラムサールネットワーク

事務局 藤永知子

- Tel：090-7268-9448
- Email：taikazann@hotmail.com
- HP：<http://www.yoshinogawa-ram.net>
- facebook 吉野川ラムサールネットワーク